

2016年1月20日

代表理事 高本

あらためまして、皆様、新年明けましておめでとう御座います。代表理事を務めております高本でございます。日ごろより、協会会員皆様におかれましては、当協会の活動主旨に深いご理解を賜り、また日々の活動を通じまして、風力発電の導入拡充にご尽力頂きまして大変有難うございます。心より感謝申し上げます。また、本日はたくさんのご来賓の皆様のご出席を賜り、また風力発電業界発展に対し、深いご理解とご指導・ご支援を頂いており衷心より感謝申し上げます。

さて、日本風力発電協会の会員数は既に285社（年間増加22社）という大変大きな団体となっており、皆様の風力発電導入拡大に期待する熱い思いを感じている次第であります。一方で、2012年7月にFITが施行されましたが、2016年3月末での推定累積導入量は、316万7千キロワット、3,167MW（年間導入量24万6千キロワット、246MW）、設置基数で2,143基（年間増加118基）、441発電所の見込みとなっており、年間導入量はやや拡大基調にはありますが、私どもが期待する導入量あるいは太陽光の導入量に比較しますと、残念ながら未だ低い水準となっております。現在環境アセス中の案件約7百万キロワットを早急に導入すると共に、日本の電力エネルギーの一翼を担う、信頼される電源として更に飛躍していきたいと願っております。

そのような観点から、2016年は風力発電業界にとってまさに正念場の年であり、皆様と共に確実な前進を図って行きたいと考えています。そのために重要なことは、風力発電システムを国民目線から見た真に信頼される電源、使いたいと思っただけの電源に成長させていくことであります。エネルギー自給率の向上に寄与する風力発電システムを、安全に据付・運用し、稼働率向上のためのスマートメンテナンス、故障予知技術の向上はもちろんのこと、風車本体・設置工事費用の徹底したコストダウンを導く技術革新を進めて、国民の皆さまが風力で発電した電力を使いたいと、思ったださる環境づくりが必要です。また、長期間を要する環境アセスに対しては、アセス自体の短縮化を継続して進めてまいります。事業採算性の予見向上を目的とした系統接続申し込みの早期化や事業ファイナンス組成の支援などを協会としても検討し、事業参画者の裾野拡大に努めてまいります。また、風車基数の拡大に伴い、メンテナンス要員の拡充は数千人規模で必要となっており、保守技術力の向上が必須となります。2015年から試行的に開始しました、協会による定期安全管理検査の自主検査を進化させ、またメンテナンス技術教育への参画など協会がリーダーシップを発揮し、業界全体の技術水準を向上させてまいります。

これらの施策をより具体化するために、日本風力発電協会では現在“Wind Vision”を策定中であり、来月末に発表する予定であります。“Wind Vision”をアクションプランに落とし込み、協会会員各社の得意とする技術分野でのイノベーションを先導し、早期に風力1千万キロワット導入を達成し、更なる飛躍につなげて行きましょう。

新年にあたり大変厳しいことを申し上げてきましたが、風力発電業界の発展にむけて、皆様と一丸となって努力して行きたいと思っております。最後になりましたが、ご臨席の皆様、ならびにご家族の皆様のご健康とご多幸を祈念致しまして新年のご挨拶に換えさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

